

令和6年度公社等点検評価表

(一次点検評価・二次点検評価)

公社等名	公益財団法人ふくしま海洋科学館
所管部局	企画調整部文化スポーツ局
担当課	生涯学習課

《評価資料》

1	公社等点検評価表	-----	1
2	付表1(概要)	-----	2-1
3	付表2(実施事業)	-----	3-1
4	付表3(経営状況)	-----	4-1
5	付表4(経営分析等)	-----	5-1
6	付表5(組織人員体制)	-----	6-1
7	付表6(県関与の状況)	-----	7-1
8	別紙1(県の財政的関与(支援)の内訳)	-----	8-1
9	別紙2(役員等の状況)	-----	9-1

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

経営計画等の具体的な成果目標とこれまでの評価、事業目標とその実績（付表2）の評価

(1) 経営計画等について

- ① 中期経営計画2019年度～2023年度
- ② 令和5年度財団法人ふくしま海洋科学館事業計画

(2) 成果目標について

東日本大震災の経験を踏まえ、新たに作成した「中期経営計画2019年度～2023年度」の最終年となった令和5年度は、新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類へと移行したことによる旅行需要の増加や全国的なメディアを含むマスコミへの露出増加などにより、611,040人となった。

②パスポート保有者数、④移動水族館車の実施回数、⑤提携旅館・ホテル等からの送客数の3項目の成果指標については目標値に届かなかったものの、①入館者数、③幼稚園・学校教育減免者数については目標を達成することができた。原発事故による風評被害の影を落としているものの、震災後初めて60万人を超える入館数となった。

実 績	令和5年度	
	実 績	目標値
①入館者数	61万人	60万人
②パスポート保有者数	7,299人	7,800人
③幼稚園・学校教育減免者数	3.0万人	2.5万人
④移動水族館回数	36回	44回
⑤提携ホテルからの送客数	2.9万人	3.2万人

(3) 事業目標と実績の評価

① アクアマリンふくしまの入館者数は、令和4年度末に行った子ども体験館「アクアマリンえっぐ」のリニューアルや企画展「絵本すいぞくかん」や「飼育員すばる君のひみつ道具」など各種企画、解説員による生き物解説・バックヤードツアー、国内最長日数となる「オオメンダコ」の展示など各種展示やイベントが好評を博した。

また、地元旅館ホテル棟の宿泊者限定の地域連携チケットの販売に加え、新たに浜通り地域の交流拡大のため、東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）とのチケット提示による相互割引を開始するなどの誘客を図り、令和5年度の入館者数は前年比104.5%の611,040人となった。

なお、震災前の平成22年度と比べると、約29.1%の減であった。

② ショップ「ウミノス」および「アクアマリンショップJOHMON」の2店舗の営業により、広い客層の集客・販売の拡充に努めた。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

- (1) 来館者へのアンケートを継続的に実施し、来館者の属性や来館のきっかけ、主な立ち寄り先や宿泊地、満足度や意見要望の把握を行っている。
- (2) GW期やお盆期間の繁忙期において、駐車場調査を実施し、来館者居住地及び動向の把握に努めている。
- (3) 小名浜まちづくり市民会議やばんえつ発見の旅、港会（小名浜港関連の16公的機関）、4社協議会（アクアマリンパーク立地のイオンモール小名浜含む4団体）などの会議等に参加し、地域の団体の一員として地域との連携を深め情報収集等に努めている。

- (4) 令和4年度に復活した「解説員」による、当館の魅力のひとつである様々な体験活動を提供に取り組んでいる。来館者のニーズに合わせた解説を提供できるよう、体験内容を定期的に更新していく。
- (5) 猪苗代町から指定管理を受けている「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」では、福島県の水環境保全・調査研究及び環境教育普及活動に関する事業を行い、積極的に情報発信する。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 経営状況（付表3）及び経営分析等（付表4）についての評価

平成12年度の開館以来、指定管理委託料の額が減少しているが、事業収入の安定確保や支出の見直し等により、平成22年度までは良好な収支バランスが維持でき、安定的な経営を行ってきた。

しかしながら、平成23年3月11日の東日本大震災とそれに伴う原発事故による風評被害により、当館を取り巻く環境は一変し、当期収入額に占める事業収入が減少したことに加え、新型コロナウイルスの影響による全体的な旅行需要の減退、光熱費及び燃料費の価格高騰などにより将来が不透明な状況にある。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行による旅行需要の回復や全国的なメディアを含むマスコミへの露出増加などで震災後初めて入館者数が60万人を超えたこと、国のエネルギー価格激変緩和対策により光熱費及び燃料費の価格高騰が抑えられたことにより収支バランスは図られているが、引き続き、対応の検討が必要である。

2 サービス向上策の評価

年中無休営業、GWなどの超繁忙期の開館時間の繰上・延長、チケット事前購入者向けの入館待ち列設定による入館待ち時間短縮を実施した。また、企画展、季節演出及び各種催事の開催、解説員による体験プログラム提供など来館者サービスの向上に努めた。

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

(1) 計画性

経営計画については、東日本大震災の経験を踏まえ、令和元年度に「中長期計画2019年度～2023年度」が策定された。本計画は、「海を通して『人と地球の未来』を考える」という法人の基本理念を確認する一方で、その前身である「中長期計画2014年度～2018年度」の反省に加えて、依然として根強い風評や近県水族館のリニューアル等業界環境の変化といった現状分析を反映し、環境水族館路線の堅持、他の水族館にない展示・プログラムの展開、連携交流の促進等に取り組む内容となっているため、マネジメントサイクルが確立されていると認められる。

(2) 成果目標と達成状況

本計画において5つの成果目標が掲げられている中で、令和5年度は2項目（①入館者数、③幼稚園・学校教育減免者数）について達成することができた。

残る3項目については、東日本大震災に係る原発事故の風評被害や新型コロナウイルス感染拡大に伴う行動制限が解除されたことに伴う旅行選択肢の増加等により、達成できなかった。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

経営計画に沿った事業構築を行う一方で、個々の事業を改善していくために、アンケート調査の実施、地域の団体との意見交換等を通して、利用者や地域のニーズの把握にも努めている。

また、放射線の情報を広く発信することで、風評の払拭にも努めている。

3 令和5年度実施事業に対する評価

(1) 設立目的及び公益性に照らした事業の評価

令和5年度に実施した飼育展示事業その他の各種事業は、海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全などに関する教育普及を実施するという法人の設立目的に合致するとともに、公益事業としてふさわしいものであったと認められる。

飼育困難生物の畜養や深海性生物の採集を行い、魅力ある展示に努めたほか、季節ごとのイベントや様々な企画展を開催し、誘客と来館者サービスの向上に取り組んだことは評価できる。

(2) 公益事業と収益事業のバランス

収益事業であるミュージアムショップ等の事業とレストラン事業は、ふくしま海洋科学館利用者の利便性を図る目的で実施しており、公益事業に附随する事業であり、収益事業による事業は、公益事業の財源として活用されている。

その事業規模は、公益事業と対比して2分の1以下となっているため、バランスは適正である。

(3) 社会情勢を踏まえた必要性

「持続可能性」と「命の教育」を中心とした環境教育活動は、現代的な課題である環境問題の解決に向けた取り組みであり、その重要性はますます高まるものと考えられる。

また、自然体験による学習交流支援、放射能汚染問題にかかるニーズは大きくなるものと考えられる。

ふくしま海洋科学館はアクアマリンえっぐを含む、施設の一層の有効活用、関係機関との協力等によって、次の時代・世代の要請に応える事業を展開していくことを期待する。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 県の財政的関与にかかる自己点検について

法人の経済的かつ効率的な施設の運営に努めたことから、令和5年度の法人の財政状況としては、収支バランスを維持することができた。

しかし、入館者数が震災前の状況まで回復していないことなど、今後の収支バランスの安定を図る上で様々な変動要因があることから、引き続き法人の財務状況について注視していく必要がある。

2 収益事業について

ミュージアムショップ等事業、レストラン事業等の収益事業については、その利益の一部が他会計に繰り入れられて、公益事業を実施するために有効に活用されているが、今後今後とも創意工夫により収益事業会計収益の安定を図る必要がある。

【参考】収益事業会計収益及び他会計への繰出額 ※（ ）書きは他会計への繰出額

令和5年度 318,891千円（32,132千円）

令和4年度 287,573千円（26,433千円）

令和3年度 220,578千円（3,073千円）

令和2年度 229,398千円（16,081千円）

令和元年度 276,142千円（27,030千円）

平成30年度 277,316千円（29,780千円）

平成29年度 317,365千円（50,886千円）

平成28年度 406,497千円（80,825千円）

平成27年度 379,621千円（122,164千円）

平成26年度 341,767千円（107,145千円）

平成25年度	337,760千円	(107,471千円)
平成24年度	337,016千円	(85,000千円)
平成23年度	233,487千円	(40,000千円)
平成22年度	330,381千円	(40,000千円)

3 経費節減について

施設管理費について、令和5年度は、修繕費の増加があったものの前年度の実績よりも下回った。しかし、施設の老朽化が進んでいることから突発的な修繕が必要となる可能性があるため、引き続き創意工夫により施設管理の効率化に努める必要がある。

4 サービス向上策について

年中無休営業並びにゴールデンウィーク、夏休み期間及びクリスマス期間の開館時間延長に加え、入館料割引特典等によるリピーター増に務め、SNSによる情報発信の強化や季節に関連したイベントの開催により、来館者サービスを向上させた。

しかしながら、原発事故による風評被害等により、依然として入館者数が震災前の水準まで回復しておらず、収支動向については注視していく必要がある。

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点3：課題への対応状況

共通課題1：東日本大震災からの復旧状況

原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況

1 東日本大震災からの復旧状況

平成25年で復旧工事は完了したが、建造物周囲の地盤沈下は依然として続いており、段差や陥没が生じている。盛り土の締まりだけではなく、地中梁の下から土砂が建物のピット内に崩れている個所もあり、中にはBIOBIO かつばの里の観覧通路が陥没した例もあるため、大規模改修計画を策定の上、大掛かりな修繕を行う必要がある。

2 原発事故に伴う損失

令和5年度の入館料収入は、平成22年度の836,189,475円に比べて166,280,475円減の669,909,000円となった。これは新型コロナウイルス感染症、人口減少、少子化、娯楽の多様化、隣接県での水族館のオープンなどによる影響のほか、原発事故による風評被害の影響も依然として続いているものと考えられる。

個別課題：

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点3：課題への対応状況
共通課題1：東日本大震災からの復旧状況 原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況
<p>1 東日本大震災からの復旧状況 復旧工事については終了したが、地震の揺れ、津波の塩害等及び築23年を経過したことにより建物・設備の劣化が進んでいるため、適切な維持管理を行っていく。</p> <p>2 原発事故に伴う損失 令和5年度の入館者数は61万人まで回復したが、依然として風評による入館者の減少は続いていくと考えられるため、今後も近隣施設との連携や展示の充実を図り入館者数の増加を目指していく。</p>
個別課題：

2 付表1: 公社概要

公社等の名称	公益財団法人ふくしま海洋科学館					
設立根拠法令	ふくしま海洋科学館条例					
設立年月日	平成10年 4月 1日					
代表者職氏名	理事長 古川 健					
事務所の所在地	福島県いわき市小名浜字辰巳町50番地					
ホームページアドレス	https://www.aquamarine.or.jp					
県所管部・課	企画調整部文化スポーツ局生涯学習課					
設立目的	海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全等に関する教育普及を実施するとともに、本県にふさわしい地域特性を生かした生涯学習の振興を図り、もって本県教育・文化の振興と生涯学習社会の実現に寄与することを目的とする。					
経営理念・目標等	<p>公益財団法人ふくしま海洋科学館は、平成21年度から中期経営計画を策定し、それに基づき点検・評価を行い、業務の効率化やコスト削減を行うとともに、展示の質の維持・向上を図ることで経営の健全化を目指してきました。しかし平成23年3月の東日本大震災とその後の風評被害が継続するなか新型コロナウイルスが蔓延しさらに厳しい運営を迫られてきました。その後、昨年5月に感染法上の位置づけが5類へと移行したことによる旅行需要の増加などにより、震災後初めて60万人を超える入館者数となりましたが、依然、震災前の水準の7割にとどまっている。</p> <p>令和3年7月には新しく古川館長が就任し、前任の安部館長が2003年に世界に向けて発信した環境水族館宣言の運営理念を堅持しつつ、世界に類を見ない展示や体験活動を提供し、子どもたちに希望のある明るい未来を想像させる唯一無二の水族館として、施設の魅力を高め、入館者の確保に努めていきます。また、当財団同様に苦境にたたされている地域の皆様と、共に考え、共に歩み、地域全体でこの状況を打破していきます。</p>					
資本金・基本金		R2末	R3末	R4末	R5末	R6末予定
(単位:千円)	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
県出資額	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
令和5年度末 出資等内訳 (単位:千円) ※県出資等を除く。	出資順位	団体名		出資額		構成比
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
主な事業内容 (詳細:付表2)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海洋生物(その他の水族を含む)の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業 2. 海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究に関する事業 3. 海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及及び地域交流に関する事業 4. 海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業 5. 身近な自然環境の保全及び修復、再生、持続的利用に関する事業 6. 上記1から5の事業を行うための公の施設等の管理運営に関する事業 7. その他公益目的を達成するために必要な事業 8. ショップ及びレストランの運営等に関する事業 9. 古物営業に関する事業 10. その他上記事業に関連する事業 					

3 付表2:実施事業

1	事業名	飼育展示事業					継続事業	公益事業
	事業内容	①生物収集事業 展示及び研究目的のための生物(水生生物、陸上小動物及び植物)の採集、購入及び輸送を実施する。 ②南方系生物畜養事業 南方系魚類(黒潮大水槽及びサンゴ礁水槽展示生物)を収集し、奄美大島の海上生け簀にて蓄養し輸送する。 ③飼育生物管理事業 収容生物(植物を含む)の展示・飼育管理、BIOBIOかっぱの里、蛇の目ビーチの環境整備、水生生物保全センター、アクアマリンえっぐの飼育管理を行う。						
	目標	①淡水生物、沿岸生物、深海生物、北方系生物、南方系生物、サンゴ礁・マングローブ生物、植物の採集購入により展示内容の充実を図る。 ②海上生け簀による蓄養・搬入により展示内容の充実を図る。 ③収容生物の展示・飼育管理等を行う。						
	事業実績	①飼育生物数(各年度末時点)22年度末684種27,495点(東日本大震災により激減)、令和2年度末1,270種64,539点、61品種882点、令和3年度末1,275種65,766点、61品種882点、令和4年度末1,261種66,856点、61品種882点、令和5年度末1,246種77,952点、62品種882点。 ②7月23日、「オオメンダコ」の展示を開始した。展示日数は153日となり国内最長記録となった。 ③2月1日、絶滅危惧種ニホンウナギの生態や保護活動などへの理解を高めるため、ニホンウナギの稚魚「シラスウナギ」の展示開始。 ④3月5日、当館職員がいわき沖で採集したスナヒトデが新種ヒトデ「サザレスナヒトデ」と公表。スナヒトデ属の新種が日本から発見されるのは104年ぶり。 ⑤水槽数・・・128槽(本館113槽、アクアマリンえっぐ3槽、BIOBIOかっぱの里1槽、蛇の目ビーチ1槽、わくわく里山縄文の里2槽、金魚館8槽)						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R4/H22	R5/H22
	169,490	90,855	83,029	105,284	76,684	62.1%	45.2%	
2	事業名	移動水族館事業					継続事業	公益事業
	事業内容	移動水族館専用車アクアラバンにより、各地域・各施設のイベント等へ出展し、海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高める。						
	目標	移動水族館専用車アクアラバンで、各地のイベント等へ出展する。						
	事業実績	移動水族館実施件数・・・22年度12箇所・観覧者16,017名 2年度5箇所(5日開催)・観覧者4,685名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く) 3年度8か所開催・観覧者5,371名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く) 4年度13か所開催・観覧者19,096名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く) 5年度22か所開催・観覧者35,938名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R4/H22	R5/H22
	26,211	172	178	1,049	1,006	4.0%	3.8%	

3	事業名	研究交流事業					継続事業	公益事業
	事業内容	学会及び各種研究会へ参加し、先進技術情報の収集を行い、展示並びに教育普及活動に反映させる。また、友好締結園館との生物及び技術交換等の交流事業を行う。						
	目標	新規展示開発につながる生物収集、生態研究及び環境保全活動の推進に務める。						
	事業実績	①学術論文 ・「アクアマリンふくしま敷地内に造成された人工海浜(蛇の目ビーチ)の大型底生動物相」(日動水雑誌掲載) ほか5誌 ②学会発表 ・「ナメダング(ダンゴウオ科)の個体発生と性的二型」 ほか13件						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 13,726	R2決算 1,498	R3決算 2,002	R4決算 12,204	R5決算 14,300	R4/H22 88.9%	R5/H22 104.2%
4	事業名	海洋文化推進事業					継続事業	公益事業
	事業内容	シーラカンスの学術研究を長期的なテーマとし、インドネシア諸島周辺海域等の調査を行う。						
	目標	インドネシア周辺海域等での、シーラカンス生態調査の実施。						
	事業実績	NHKとの共同調査に向けて南アフリカ共和国関係機関との調整を行った。 また、インドネシア共和国調査機関(BRIN)を招聘し、調査活動再開に向けた協議を行った。						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 17,410	R2決算 0	R3決算 0	R4決算 575	R5決算 3,337	R4/H22 3.3%	R5/H22 19.2%
5	事業名	企画営業事業					継続事業	公益事業
	事業内容	①入館者管理事業 接客技術及び利便性の向上等により来館者サービスの向上に努め、来館者の増加を図る。 ②企画営業事業 来館者サービスと広報を兼ね、館内外における常設展示とテーマを定めた企画展を開催し来館者の増加を図る。 ③広報宣伝事業 ふくしま海洋科学館の特色を県内外にアピールするとともに、企画展等の開催が来館者の増加とリピーターの満足度向上に繋がるよう、パブリシティを活用した広報活動や各種媒体による広報宣伝活動を展開する。 ④観光誘致事業 首都圏及び隣接県を中心に、県内外の旅行エージェント等に対する積極的なPR活動及び営業活動を展開する。また、地域の観光関係団体、観光施設等との連携により一層の誘客を図る。 ⑤地域交流事業 周辺地域との交流を深めて地域に根ざした施設づくりを進め、地域振興に貢献する。						
目標	①受付・案内誘導業務の専門業者への委託、年間パスポートの販売によりサービス向上に努める。 ②企画展、季節演出及び各種催事を実施する。 ③テレビ、ラジオ及びCMの放送、旅行誌等への広告掲載、マスコミへの情報提供、テレビ及びラジオへの出演、チラシ配付、ホームページによる広報を実施。 ④エージェント等への営業訪問を実施する。観光懇談会、キャラバン等へ参加し積極的な誘客事業を行う。 ⑤小名浜港まつりへの協賛、あぶくま発見の旅サポート事業の推進、まちづくり市民会議への参画。							

事業実績	<p>①年間パスポート販売件数・・・22年度8,386件、2年度5,820枚、3年度4,819枚、4年度7,720枚、5年度7,299枚。</p> <p>②企画展開催件数(催事も含む)・・・22年度10件、1年度14件、2年度12件、3年度12件、4年度18件、5年度15件。</p> <p>③テレビCM放映局数(県内、県外)・・・22年度40局、2年度12局、3年度14局、4年度14局、5年度17局。</p> <p>④観光券取扱契約業者からの送客数・・・22年度23,712人、2年度2,935人、3年度10,248人、4年度24,772人、5年度28,892人。 旅客幹旋手数料支払契約業者からの送客数・・・22年度11,145人、2年度832人、3年度4,276人、4年度17,544人、5年度81,944人。 コンビニ店舗における前売券販売による集客・・・入館者数(2年度6,254人、3年度5,425人、4年度17,710人、5年度26,950人)</p> <p>⑤小名浜まちづくり市民会議等への参加等、周辺地域との交流を深めた。</p>							
	事業費 (単位:千円)	H22決算 158,925	R2決算 129,668	R3決算 135,618	R4決算 118,763	R5決算 127,307	R4/H22 74.7%	R5/H22 80.1%
6	事業名	学習交流事業					継続事業	公益事業
	事業内容	<p>①解説活動事業 子供から大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象とした解説活動を実施する。</p> <p>②展示事業 魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板及び情報ソフト等の更新を随時行う。</p> <p>③学校教育関連事業 学校及び社会教育施設との連携を図りながら、海の生物、海洋文化・科学に関する学習支援事業を推進する。</p> <p>④情報提供事業 インターネットや機関誌を利用して、活動状況や水生生物及び海などに関する情報を提供する。</p>						
	目標	<p>①海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設を目指す。</p> <p>②展示の充実を図る。</p> <p>③館内学習、館外授業、ガイダンス及び移動水族館専用車両の活用等により学習支援事業を実施する。</p> <p>④ホームページの随時更新、機関紙(AMF NEWS)の発行。</p>						
	事業実績	<p>①解説員による大水槽の生き物解説や有料のバックヤードツアー等の解説活動を実施した。</p> <p>②オセアニックギャラリーにおいて、引き続き、「いわき七浜捕鯨文化」、「地球環境の保全活動」、「海にあふれるプラスチックごみ」等の展示した。</p> <p>③移動水族館専用車による移動水族館の開催・・・3年度10校806人、4年度27校1,892人、5年度14校903人。</p> <p>④情報コーナーにおいて国内外の友好園館を紹介する展示を実施した。 風評被害払拭に関わる放射線関連の情報を提供した。 ホームページ、フェイスブック、ツイッターで情報提供。機関紙(AMF NEWS)を年2回発行。</p>						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 119,660	R2決算 6,773	R3決算 47,908	R4決算 14,765	R5決算 16,691	R4/H22 12.3%	R5/H22 13.9%

7	事業名	スクール開催事業					継続事業	公益事業
	事業内容	①生物や環境、命の大切さなどについての体験を通して楽しみながら学ぶプログラムを提供する。 ②マアジやギンザケ等の釣り体験、調理・食事体験を実施する。						
	目標	①海の生物に親しみ、自然の事象について興味・関心を高めることを目的に、子どものみ、親子等というように、募集対象も異なる多種多様なプログラムを事前参加募集により開催する。 ②体験を通して、子どもたちに命を頂戴する意味を五感を通して考えていただく。						
	事業実績	①「飼育員と学ぼう」と題した、飼育員が様々なテーマでレクチャーを行う体験プログラムを17回開催し、271名の参加があった。 ②釣った魚を調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の機会を提供した。参加者数:20,467組。						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 20,077	R2決算 17,445	R3決算 17,476	R4決算 28,583	R5決算 37,754	R4/H22 142.4%	R5/H22 188.0%
8	事業名	ボランティア等活動事業					継続事業	公益事業
	事業内容	アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進していく。						
	目標	バックヤードツアーの実施、アクアマリンえっぐでのプランクトン解説等。						
	事業実績	ボランティア登録者数…22年度末237名、2年度受け入れ休止(コロナのため)、3年度162名、4年度165名、5年度168名。						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 2,245	R2決算 1,466	R3決算 1,087	R4決算 873	R5決算 1,321	R4/H22 38.9%	R5/H22 58.8%
9	事業名	施設管理事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県との協定に基づきふくしま海洋科学館、水生生物保全センター、子ども体験館アクアマリンえっぐ及び海水取水・送水施設並びに備品等の県有財産の維持管理・修繕を適正に行う。						
	目標	施設及び車輛の維持管理。						
	事業実績	主要維持管理施設…本館等敷地56,189.52㎡、本館延床12,935.11㎡、水生生物保全センター延床925.09㎡、子ども体験館アクアマリンえっぐ1,266.7㎡、取水ポンプ棟84.43㎡、ろ過送水棟180.04㎡、わくわく里山・縄文の里関連施設1,509.56㎡						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 390,577	R2決算 379,463	R3決算 468,598	R4決算 412,109	R5決算 410,168	R4/H22 105.5%	R5/H22 105.0%

10	事業名	ミュージアムショップ等事業					継続事業	収益事業
	事業内容	ふくしま海洋科学館の来館者に思い出や感動を持ち帰っていただく財団直営のミュージアムショップを運営し、来館者サービスの充実を図る。						
	目標	売り上げ状況分析やオリジナル商品の開発に積極的に取り組み、売り上げの増加を図る。						
	事業実績	売上… 22年度282,063,891円、2年度127,256,782円、3年度139,793,179円、4年度243,608,726円、5年度272,740,184円						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 207,986	R2決算 121,556	R3決算 125,268	R4決算 195,388	R5決算 213,341	R4/H22 93.9%	R5/H22 102.6%
11	事業名	レストラン事業					継続事業	収益事業
	事業内容	アクアマリンふくしま「海を食べる」をテーマにおいしい水族館を目指してオリジナルシーフードメニューを提供し、来館者の利用促進、満足度向上と魚食普及を図る。						
	目標	水族館らしいオリジナルメニューを開発し、おいしい水族館として定着させ、収益増を図る。						
	事業実績	売上… 22年度37,392,835円、2年度27,252,400円、3年度26,579,460円、4年度50,982,255円、5年度70,491,699円						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 49,995	R2決算 49,332	R3決算 39,191	R4決算 47,571	R5決算 58,599	R4/H22 95.2%	R5/H22 117.2%
12	事業名	アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県内及び猪苗代湖の保全をテーマに、統括的な事業展開を行う。						
	目標	①絶滅が危惧される水生昆虫や両生類等の保全を図る。 ②参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動を図る。						
	事業実績	①福島県の河川・湖沼についての展示を行うとともに、希少淡水魚繁殖保全水槽にて絶滅が危惧される生物の展示を行った。また、県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示を行い、生物多様性について情報発信を行った。 ②釣り体験や小川水槽等の体験型展示を通じて環境保全や教育普及を行った。						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 —	R2決算 78,885	R3決算 81,191	R4決算 87,870	R5決算 87,497	R4/H22	R5/H22

4 付表3:経営状況

区 分		H22決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R4/H22	R5/H22
収 支 の 状 況	① 収入	2,016,339	1,723,539	1,916,975	2,275,046	2,368,887	113%	117%
	当期収入合計	1,811,389	978,258	1,325,492	1,486,533	1,559,229	82%	86%
	うち基本財産運用収入	1,778	73	0	161	207	9%	12%
	うち事業収入	1,201,042	557,299	548,115	1,001,901	1,125,654	83%	94%
	うち補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)	541,615	420,886	777,377	484,471	433,368	89%	80%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	うち特定預金取崩	66,954	0	0	0	0	-	-
	前期繰越収支差額	204,950	745,281	591,483	788,513	809,658	385%	395%
	② 支出	1,838,355	1,470,446	1,431,991	1,512,374	1,517,749	82%	83%
	うち人件費総額	424,208	458,478	440,009	453,131	460,207	107%	108%
うち人件費総額管理費(除人件費)	402,188	382,946	472,374	416,210	415,112	103%	103%	
うち事業費(除人件費)	1,011,959	629,023	519,608	643,032	642,431	64%	63%	
③ 当期収支差額	-26,966	-491,857	-106,336	1,426	39,940	-5%	-148%	
④ 次期繰越収支差額	177,984	591,483	788,513	809,658	867,851	455%	488%	
財 産 の 状 況	① 資産	2,450,327	2,021,216	1,969,697	1,977,628	2,034,014	81%	83%
	流動資産	563,491	744,451	992,671	1,019,970	1,068,777	181%	190%
	固定資産	1,886,836	1,276,765	977,026	957,659	965,237	51%	51%
	② 負債	514,982	496,575	551,554	585,326	606,096	114%	118%
	流動負債	372,654	152,968	204,157	210,312	200,926	56%	54%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	固定負債	142,328	343,607	347,397	375,014	405,171	263%	285%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	③ 正味財産	1,935,344	1,524,641	1,418,143	1,392,302	1,427,917	72%	74%
	うち当期増減額	19,703	-492,188	-106,499	-25,841	35,615	-131%	181%

5 付表4:経営分析

区 分	H22決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R4/H22	R5/H22
①公益事業比率	82%	89%	88%	82%	80%	100%	98%
支出額計	1,838,355	1,470,446	1,431,991	1,512,374	1,528,614	82%	83%
公益事業支出額	1,502,886	1,301,886	1,256,044	1,239,358	1,228,389	82%	82%
収益事業支出額	335,469	168,561	175,947	273,016	300,225	81%	89%
②直営事業比率	96%	85%	78%	80%	81%	84%	85%
支出額計	1,838,355	1,470,446	1,431,991	1,512,374	1,517,749	82%	83%
直営事業支出額	1,757,172	1,254,446	1,117,220	1,215,450	1,232,039	69%	70%
再委託事業支出額	81,183	216,000	314,771	296,924	285,710	366%	352%
③自主事業比率 (自主事業／支出額計)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
④施設等利用人数 (行政客体)	861,326	339,855	335,538	584,564	611,040	68%	71%
⑤施設等稼働率						-	-
⑥補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)比率 (補助金等額／当期収入合計)	30%	43%	41%	21%	18%	70%	61%
⑦流動比率 (流動資産／流動負債)	151%	487%	486%	485%	532%	321%	352%
⑧管理費比率 (管理費／支出額計)	22%	26%	33%	28%	27%	128%	125%
⑨人件費比率 (人件費／支出額計)	23%	31%	31%	30%	30%	130%	131%
⑩借入金比率 (借入金／資産)	0%	0%	0%	0%	0%	-	-
⑪一人当たりの人件費 (人件費／総職員)	5,050	5,270	5,116	5,526	5,351	109%	106%
⑫一人当たりの事業収入 (事業収入／総職員)	20,746	11,244	15,412	12,218	13,089	59%	63%
⑬補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)に含まれる人件費比率(人件費／補助金等)	78%	109%	57%	94%	106%	120%	136%
⑭事業収入に含まれる人件費比率(人件費／事業収入)	24%	47%	53%	45%	41%	185%	168%

5 付表4-2:経営分析

⑮長期借入金の状況	(令和5年決算の内訳)		
	借入先	金額 利率	目 的 返済予定

6 付表5:組織人員体制

1 役職員の状況

(単位:人)

区分		H22末	R2末	R3末	R4末	R5末	R6(4/1)	R5/H22	R6/H22
役員 (監事含む)	常勤役員	2	2	2	2	2	2	100%	100%
	プロパー	1	1	1	1	1	1	100%	100%
	民間							-	-
	県OB							-	-
	県現職派遣	1	1	1	1	1	1	100%	100%
	その他							-	-
	非常勤役員	10	10	10	10	10	10	100%	100%
	民間	7	8	8	8	8	8	114%	114%
	県OB		1	1	1	1	1	-	-
	県現職	2	1	1	1	1	1	50%	50%
	その他	1						-	-
合計	12	12	12	12	12	12	100%	100%	
職員	常勤職員	41	47	48	47	46	46	112%	112%
	プロパー	35	44	45	44	43	43	123%	123%
	民間							-	-
	県OB							-	-
	県現職派遣	6	3	3	3	3	3	50%	50%
	その他							-	-
	非常勤職員	41	40	36	35	40	42	98%	102%
	嘱託員	2	4	4	3	3	3	150%	150%
	臨時職員	34	5	1	4	5	7	15%	21%
	人材派遣							-	-
	その他	5	31	31	28	32	32	640%	640%
合計	82	87	84	82	86	88	105%	107%	

2 職員の年齢構成 (令和6年7月1日現在)

(単位:人)

区分		~30歳	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60	61~
管理職員	プロパー						3	2	
	民間								
	県OB								
	県現職派遣						1		
	その他								
	合計	0	0	0	0	0	4	2	0
一般職員	プロパー	5	5	7	3	10	6	1	1
	民間								
	県OB								
	県現職派遣	1		1					
	その他	12	2	3	2	2	5	3	13
	合計	18	7	11	5	12	11	4	14
総計	18	7	11	5	12	15	6	14	

7 付表6: 県の関与状況

区 分		H22決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6当初	R5/H22	R6/22	
財政的 関与	①補助金等	479,530	393,150	740,771	441,805	387,594	612,721	1	1	
	補助金	35,000	30,966	25,685	25,685	25,685	41,112	1	1	
	負担金							-	-	
	交付金							-	-	
	委託料		275					-	-	
	指定管理料	444,530	361,909	715,086	416,120	361,909	571,609	1	1	
	②貸付金								-	-
③損失補償額(契約額)								-	-	
④債務保証額(契約額)								-	-	
人的 関与	⑤役員就任(監事を除く)	2	2	2	2	2	2	1	1	
	常勤役員	1	1	1	1	1	1	1	1	
	県OB							-	-	
	県現職派遣	1	1	1	1	1	1	1	1	
	上記以外の職員							-	-	
	非常勤職員	1	1	1	1	1	1	1	1	
	三役							-	-	
	部局長	1						-	-	
	県OB							-	-	
	上記以外の職員		1	1	1	1	1	-	-	
	⑥監事就任	1	0	0	0	0	0	0	-	-
	三役								-	-
	部局長								-	-
	上記以外の職員	1							-	-
	⑦評議員就任	1	1	1	1	1	1	1	1	1
部局長		1	1	1	1	1	1	-	-	
上記以外の職員	1							-	-	
⑧職員派遣	6	3	3	3	3	3	3	1	1	
管理職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
一般職員	5	2	2	2	2	2	2	0	0	

8 別紙1

区分	名 称	R5決算額
	補助等の目的	(単位:千円)
補助金	利用料金免除事業補助金(福島県)	25,685
	広く海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上及び生涯学習の振興を図る。	
	補助金額合計	25,685
負担金		
交付金		
委託料		
	委託料額合計	0
指定管理料	指定管理者制度に伴う管理委託料(福島県) 県民に海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上を図り、生涯学習の振興に資するふくしま海洋科学館の設置目的を効果的に達成するため管理を実施する。	361,909
貸付金		
損失補償額		
	損失補償額合計	0
債務保証額		
	債務保証額合計	0

9 別紙2 役員の状況

令和6年6月末現在

区分	定数	氏名	常勤・非常勤の別	職名	当初就任日
					現任期満了日
理事長	1	古川 健	常勤	ふくしま海洋科学館館長	R3.6.28 R7.6評議員会の日
副理事長	1	(空席)			
専務理事	1	(空席)			
常務理事	1	大槻 立志	常勤	ふくしま海洋科学館副館長	R5.6.23 R7.6評議員会の日
理事	4~12	小宮輝之	非常勤	前上野動物園園長	H25.4.1 R7.6評議員会の日
		川田雅雄	非常勤	小名浜まちづくり市民会議 副会長	H28.6.22 R7.6評議員会の日
		田中 明	非常勤	元中東協力センター 審議役	H28.6.22 R7.6評議員会の日
		藪本美孝	非常勤	北九州市立自然史・歴史博物館 魚類担当学芸員(自然史担当係長)	H29.6.21 R7.6評議員会の日
		高田浩二	非常勤	海と博物館研究所所長	R5.6.23 R7.6評議員会の日
		山下治子	非常勤	株式会社アム・プロモーション 代表取締役	R5.6.23 R7.6評議員会の日
		佐藤みゆき	非常勤	福島県企画調整部文化スポーツ 局次長	R5.6.23 R7.6評議員会の日
監事	2以内	伊東幸雄		前公立岩瀬病院企業団企業 長	R3.8.30 R7.6評議員会の日
		関根貴		東邦銀行常務執行役員 いわき営業部長	R6.6.27 R7.6評議員会の日